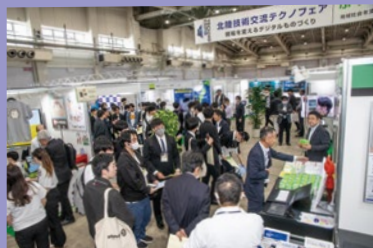




こ
ち
デ
ジ

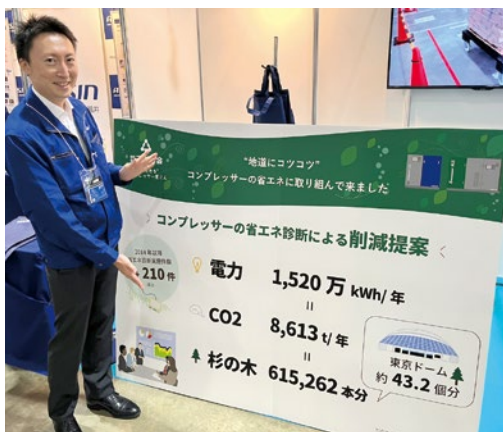
福井商工会議所
こちら デジタル活用
ビジネス支援センター

テクノフェアで発見！ 福井の企業が提供する デジタル化支援ツール



2023年10月19日・20日に福井県産業会館にて開催された「北陸技術交流テクノフェア」は、全国各地から180を超える企業・団体が出展しました。今回は、福井市内の出展者2社の、企業のデジタル化推進を後押しするツールについてご紹介します！

（株）三栄商会
常務取締役 石間光太郎さん



（株）三栄商会（福井市問屋町2-62）は、「相談できるコンプレッサー屋さん」として、空気圧縮機の販売や設置に加え、メンテナンス業務を行っています。単に機械の故障に対応するのではなく、60年間のノウハウ

ウをもとに省エネ提案も行い、補助金申請の手伝いもしています。テクノフェアでは、エアリークを探索する「エアリークビューアー」とIoTの「Kobelink」を展示していました。「Kobelink」はコンプレッサーに付属させることができ、リアルタイムの稼働状態、故障時にメールで自動通知する機能や消費電力などの月報を自動作成してくれます。こちらを活用すれば、機械故障や電気消費が増えた原因を事前に把握することができ、安心稼働十省エネに繋がります。



「Kobelink」を活用すれば、リアルタイムに消費電力量をグラフ化するため、消費量が増えた場合は「設備に異常があったのでは？」と推測することができます。

「エアリークビューアー」は機器のカメラを設備に向けてだけで空気が漏れている箇所を素早く特定することが可能。エアリーク量も把握でき、無駄なエアリーの削減に効果を発揮できます。石間常務は「カーボンニュートラルにも寄与できる」デジタルツールとしてPRしていました。

大電産業（株） エンジニアリング事業部
信組 保彦さん（右）
岡本 隆史さん（左）



大電産業（株）（福井市春山1-6-15）は、電気・通信・制御のエンジニアリング商社です。導入する機器の選定からソフト・ハード設計、現



力覚センサー搭載ロボットアーム。重さが異なるボトルをアームが掴んだ際に重量を感知して各ラインに移動させます。

場での試運転までワンストップで対応し、工場の省人化・省力化やIoT導入による見える化等をサポートしています。初出展となった今回のフェアでは、ロボットアームのデモンストラーションを行っていました。今回は部品等の仕分け工程の自動化について実演されていました。この産業用ロボットの先端部には力覚セン

サーが搭載されており、水の量によって重さが異なる赤・緑・青に色分けされたボトルを、重量別に感知・仕分けして、指定されたラインまで運んでいました。

人手不足や働き方改革の影響もあり、ものづくり企業からの生産設備・製造工程の自動化に関する相談は、ここ数年、特に増えてきているとのこと。岡本さんからは「産業用ロボットにはプログラミングの知識が必要で、難しい設定を覚える必要がある」と敬遠されてしまっている方も多い。当社では、ロボットやIoT機器の導入に際し、一貫したご支援をさせていただくので、工場の生産性向上に向けた第一歩として気軽に相談して欲しい」とお話しいただきました。

今回のテクノフェアには、慢性的な人手不足問題の解決や働き方改革への対応、現場での生産性向上に繋がるようなデジタルツールが多く展示されていました。自社課題の解決や更なる業務効率化に向けて、次回（2024年）もぜひご来場ください。

こ
ち
デ
ジ

番外編
リモートで活躍！
案内役Vtuber

今回の「北陸技術交流テクノフェア」では、デジタル（アバター）技術を活用した新たな接客対応の実演として、ヴァーチャルユーチューバー（Vtuber）の方にインフォメーション業務を担っていただきました。

今回は、地元福井のVtuber「巫羅りんか」さんにご協力いただき、出展者ブースの位置や講演会・プレゼンテーション会場等の案内をリモートで対応していただきました。



フェア正面入口で、たくさんの来場者の方をお出迎えしてくれたりんかさん。県内で唯一Vtuberプロダクション事業を行う株式会社glowのライブとして活動しています。

来場者の方の反応を伺うと、「リモートで人間が対応してくれていると思わなかった」「話す時に少し緊張した」など、あまり馴染みがない様子。それでも笑顔が見られたりするなど、モニター越しではありますが、対面での対話と遜色ない接客ができていたと感じました。Vtuberは企業や地域のPR活動など、エンターテインメントとしてだけではなく、インフルエンサーとしての活躍の場を増やしています。また、「人前が出るのが苦手」「心身に傷を負っており外には出られない」という方もいらっしゃると思います。今後の接客スタイルの1つとして、アバター技術が一般的に広がっていく可能性もあるのではないのでしょうか。

本件に関するお問合せ先
福井商工会議所
産業技術・DX推進課

0776-33-8252

デジタル活用
ビジネス支援
センターHP
はコチラ

